

NEWS

国立新美術館ニュース

8

2016
—冬号



児島虎次郎《和服を着たベルギーの少女》1911年 / 116.0 × 89.0 cm / 油彩・カンヴァス

はじまり、美の饗宴展

大原美術館コレクションの
魅力の源泉とは

新

EXHIBITION

展覧会

日本最大級の展示スペースを生かし
多彩な展覧会を開催しています

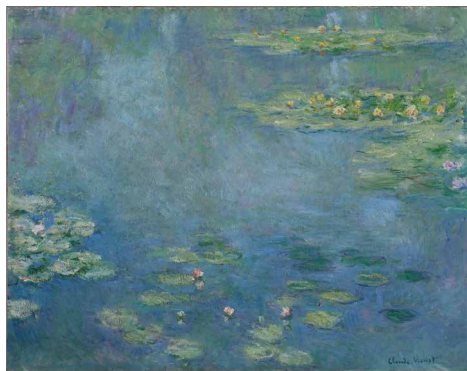
企画展 はじまり、美の饗宴展

大原美術館コレクションの 魅力の源泉とは

岡山県倉敷市で1930年に開館した大原美術館は、西洋美術を紹介する日本初の本格的な美術館です。歴史ある同館が所蔵する名品の数々をこれまでにない規模で紹介する展覧会が1月20日から国立新美術館で開催されます。今もなお、収集が続けられている大原美術館コレクションの理念とは何か、本展担当研究員の長屋光枝に聞きました。

—大原美術館コレクションの特徴は？

西洋近代美術、日本近代美術、民芸、戦後美術から現代美術と一見バラバラに見



クロード・モネ《睡蓮》1906年頃/ 73.0 × 92.5 cm / 油彩・カンヴァス



ジャクソン・ポロック 《カット・アウト》 1948-58年 / 77.0 × 56.8 cm / 油彩、エナメル塗料、アルミニウム塗料など・厚紙、カンヴァス、ファイバーボード

えるかもしれませんが、共通しているのはその時々と同時代の作品を収集していることです。大実業家であった大原孫三郎の支援を受けて、ヨーロッパで美術品の収集を始めた画家の児島虎次郎は、画廊だけでなく作家のもとを直接訪問し、まだ日本では紹介されることが少なかった当時最先端の西洋絵画を精力的に購入しました。モネの《睡蓮》もその一つです。孫三郎の長男・總一郎も、日本近代洋画や戦後のアンフォルメル作品、アメリカの抽象表現主義の作品など、時代の潮流を意識した作品を自らの審美眼で収集しました。また、大原家が代々、孫三郎の思想を引き継いで作品を収集し続けてい

関根正二「信仰の悲しみ」1918年／73.0×100.0cm／油彩・カンヴァス／重要文化財



るのも特徴的です。コレクションを展望すると、美術の歴史の流れの中に作家や収集家の息遣いを感じることができるかもしれません。

— 展覧会を通して伝えたいことは？

日本にこれだけの一級品が揃った美術館があるということ、また、美術を収集して社会に貢献するという気概のある魅力的な人たちがいたことを知っていただきたいです。孫三郎が美術品の社会的意義をはじめて実感したのは、児島が収集した西洋絵画が倉敷の小学校で一般公開されたときのことです。東京からも見物に来る人がいるほど、大きな反響を呼んだこの展示をきっかけに、孫三郎は児島の収集を積極的に支援するようになったと言われています。そして、孫三郎は児島の早すぎる死を悼んで、その遺作と収集品を展示する大原美術館を創設しました。また、戦時中でも美術館は、わずかな期間を除いて開館していたというエピソードからも、「社会から得た利益は社会に還元する」という孫三郎の心意気が伝わってきます。

CURATORS' VOICE



本展担当研究員の
長屋光枝に展覧会の
見どころを聞きました。

大原美術館は西洋美術だけでなく、日本近代美術の分野でも優れた作品を数多く所蔵しています。関根正二や古賀春江など、早世した画家たちの貴重な代表作や民芸運動に関わった作家たちの素晴らしい作品も充実しています。例えば、棟方志功の《二菩薩釈迦十大弟子板画冊》は、12枚並べると横幅10メートル以上にもなる大作ですが、今回は一面の壁に横一列で展示します。本作は、昭和31年のヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展で国際版画大賞を受賞しましたが、当時の海外の人々の驚きが伝わってくるようです。また近年、同館は現代美術家に制作の場を提供するARKO (Artist in Residence Kurashiki, Ohara) などの活動も行っています。作家との協働によって形成された現代アートのコレクションもユニークです。現代的で広大な国立新美術館の展示室で、大原美術館コレクションの新たな一面を感じていただけたら幸いです。

はじまり、美の饗宴展 すばらしき大原美術館コレクション

会 期：2016年1月20日(水) — 4月4日(月)
休 館 日：毎週火曜日
開館時間：10:00～18:00 金曜日は20:00まで
※入場は閉館の30分前まで
会 場：企画展示室1E

「一枚の布」と人間の身体、 デザインへの飽くなき探究

「一枚の布」をいかにして使い、活かすのか。衣服を「ファッション(流行)」としてではなく、人間の身体活動とその生活に密接に結び付く「デザイン」として捉え、伝統的な技や最先端の技術を応用し、革新的な服づくりを探究し続ける三宅一生氏。この度、国立新美術館で初めてのデザイナーの個展として、三宅氏の初期から現在に至る約45年間にわたる仕事をご紹介します。

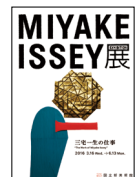
「ジーンズやTシャツのように多くの人が自由に着られる服をつくりたい」という三宅氏の言葉に象徴されるように、何よりも着る人を中心に据えた服づくりが、どのような考え方を基に行われているのか。本展は、三宅氏の遊び心溢れるデザインが発展してきたプロセスをご紹介します、子どもから大人までデザインの素晴らしさに触れることのできる機会となるでしょう。会場では、三宅氏の代表作の一つであるPLEATS PLEASEのプリーツ制作過程も実際にご覧いただける予定です。



ISSEY MIYAKE (コロンプ Spring/Summer 1991)
1990年 撮影：岩崎寛



左：ISSEY MIYAKE (フライング・ソーサー Spring/Summer 1994) 1993年 右：132 5. ISSEY MIYAKE (No. 10 スカート) 2010年 撮影：宇土浩二



「MIYAKE ISSEY展」 三宅一生の仕事

会 期：2016年3月16日(水) — 6月13日(月)
休 館 日：火曜日(ただし5月3日(火・祝)は開館)
開館時間：10:00~18:00 金曜日は20:00まで開館
※入場は閉館の30分前まで
会 場：企画展示室2E

公募展

国立新美術館は、全国的な活動を行っている美術団体等へ発表の場を提供しています

公募団体等の活動

「日本書作院展」

日本書作院は昭和38年に初代理事長 浅香鉄心、同副理事長 吉澤鉄石・大久保龍石によって創立され、平成9年より現理事長 星 弘道、同副理事長 鶴見香萩・吉澤石琥・吉澤鐵之の体制に代わり、現在に至っております。また会自体、大きく分けて同人・準同人・院友によって組織され、日本書作院展のほか日展・読売書法展に出品しての成績により、院友から徐々に上がって行く仕組みとなっています。

会の特色としては王羲之を根幹とした明清の行草体を得意とし、本格の書を目指す修練主義をモットーとしているところに有ります。その活躍の場である日展において星理事長は理事に、吉澤鐵之副理事長は会員に、吉澤石琥副理事長は特選を受賞と、確実にその実力と成果を発揮しております。

教育普及活動としては会の下部組織として5つの競書誌を発行し、それぞれの会ごとに学生から一般の初心者を対象として基礎から古典学習など、懇切丁寧に人材の育成に努めております。

その他にも、毎年の本展の企画として硯・印材などの文房四宝や明清の書など、学

書の糧となるものを陳列する特別展示を開催し、好評を得ております。

今後の課題としては、巷の社会現象としての少子高齢化にどのようにして対処して行くか、更に3千年も続く書の美の高尚な世界を正しく次の世代に手渡して行くために若手の養成が急務であります。そのためには、パフォーマンスやショービジネスに惑わされることなく、会員各自が自己研鑽に努めることで、地道な普及活動をしてゆく以外に方法はないと考えております。

(日本書作院 副理事長 吉澤鐵之)



日本書作院展 展示風景

EDUCATION

教育普及

美術に親しむワークショップや講演会の開催、鑑賞ガイドブックの配布などを行っています

国立新美術館 インターンへの インタビュー



澤田将哉さん

佐藤詩織さん

飛永美紀さん

国立新美術館では毎年インターン事業を実施しており、大学院生や若手研究者が希望する部門で最長2年間活動しています。今回は、インターンの佐藤詩織さん、澤田将哉さん(ともに教育普及室)、飛永美紀さん(広報室)に、インターン活動についてお聞きしました。

インターンを志望したきっかけは？

佐藤：国立新美術館のサポート・スタッフ(登録制の学生ボランティア)の活動に参加し、美術館での教育普及事業に関心を持ったことがきっかけです。

澤田：図工・美術の教員になろうかと考えたときに、美術館のことを知らないといけないと思ったからです。

飛永：美術館が社会に対してどのように情報発信していくのかに興味をもったことと、広報の業務を経験してみたかったからです。

インターン活動を通して学んだこと

澤田：美術館の事業を知ることができたので、外部の人間としてどのように美術館を活用することができるのかを考えるようになりました。

飛永：プレス向けの内覧会の手伝いや取材の立ち会いなど、貴重な現場の体験をさせていただきました。また記事の収集を通して美術館がどう社会から見られているかも学びました。

インターン活動を経て、これから

佐藤：今後は、コミュニケーションを通じて美術と人をつなげる仕事に就きたいと思っています。

澤田：制作活動もしているので、その視点を活かした教育活動をする人になりたいと思っています。

飛永：絵本の出版社へ就職するのですが、現代美術を絵本というかたちで親しんでもらうことができればと思っています。

※インターンの募集について：毎年12月～2月頃にかけて国立新美術館のホームページ上で募集告知しています。

JACプロジェクト

国立新美術館では、海外で入手困難な日本の展覧会カタログを日本美術研究の海外の拠点機関に寄贈する事業「JAC (Japan Art Catalog) プロジェクト」を実施しています。このプロジェクトは、1995年に国際交流基金と(財)国際文化交流推進協会(エース・ジャパン)の共催事業として始まりました。エース・ジャパンが開設した展覧会カタログ専門図書館「アートカタログ・ライブラリー」の閉館に際し、その蔵書約2万冊とともに、JACプロジェクトも当館に引き継がれました。

その後、プロジェクトの趣旨に賛同する国内の美術館や関係機関を通じて提供いただいた展覧会カタログを、海外の4機関(アメリカ:スミソニアン研究所フリーア美術館図書室、コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館、オランダ:ライデン大学東亜図書館、オーストラリア:シドニー大学フィッシャー図書館)へ、毎年寄贈しています(昨年度は合計約1,473冊を送付)。また、こうした活動に対する返礼として、寄贈先の各機関からも展覧会カタログ等

が寄贈されることもあります。その一部を「JAC II コレクション」としてアートライブラリー開架にて公開していますので、みなさまどうぞお手に取ってご覧ください。

※なお、個人の方からの展覧会カタログ等の海外への発送依頼はお受けしておりませんので、ご了承ください。



JAC II コレクション (美術館3階アートライブラリー開架)

「はじまり、美の饗宴展」期間限定特別メニュー

「はじまり、美の饗宴展 すばらしき大原美術館コレクション」にちなんだ特別メニューを館内レストラン&カフェにてご用意します。多くの美術愛好家の心を捉え続け日本を代表する大原美術館。その華麗なるコレクションの数々からヒントを得た期間限定特別メニューをこの機会にお楽しみください。



「3階フラッグスリッポール・ボキユ」ズミゼ」の展覧会特別メニュー※画像はイメージです。

「SPAGHETTI FROM MAGMA」 2016年1月20日(水)ー3月14日(月)

B1階SFTギャラリーではアーティストユニット「magma」による企画展を行います。本展では、日用品をテーマに小さなものから大きなものまでオールハンドメイド一点ものを展示販売いたします。ポスター、キーホルダー、ステッカーなどの限定商品もお見逃しなく。



PICK UP ピックアップ

観覧料がお得になる様々な割引

国立新美術館で実施している様々な割引をご存知ですか？当館で開催中の企画展および公募展が対象の「相互割」や、サントリー美術館、森美術館との間で実施している「あとろ割」は、チケットの提示(半券可)で観覧料が割引になります。また、大学生等を対象にした「キャンパスメンバーズ」や「高校生無料観覧日」等、学生の方に向けた制度も充実。さらに、中学生以下の方は企画展の観覧が無料です。お得な割引をうまく使って、ぜひ展覧会をお楽しみください。



※展覧会により18歳未満が無料の場合もあります。

※割引の内容は展覧会により異なります。各展覧会チケット窓口でご確認ください。